

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2025年度 助成者)

作成日 2025年 8月 18日

氏名 (フリガナ)	須藤日向子 (スドウヒナコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日 (月) ~ 8月9日 (土)
大学名	岐阜大学
学年	5年

1.研修の目的・目標

私が本研修に参加した目的は、将来的に国際的な研究活動や海外での臨床経験を視野に入れていることに加え、本研修を通して全国の大学から集まる高い志を持つ学生と交流し、共に学ぶことができると思ったからです。

2.研修内容

Case presentation と History taking では、まず基本的なフォーマットについてご指導いただき、その枠組みに沿って様々な症例の問診を行い、実践的に練習を重ねました。その後は、先生方の前で Case presentation を行い、丁寧なフィードバックをいただきました。はじめは自分1人で行うことができるのか不安もありましたが、繰り返し練習を行い、先生方からの細やかなご指導をいただく中で、次第にスキルが向上していくことを実感することができました。PBL では、与えられた患者情報をもとに臨床推論を行いました。メンバー同士で知識を補い合いながら議論を深め、鑑別疾患や必要な検査について考察する過程は、私の大学ではあまり経験することがなく、大変新鮮でした。スペシャルレクチャーでは、ハワイでご活躍されている先生方から、ご自身のご経験や日々の仕事内容、日本との医療の違い、USMLE 取得に関する事、さらには将来アメリカで働くための具体的なアドバイスを伺うことができました。大変貴重な学びの機会であり、また先生方が「いつでも連絡してください、力になりますよ」と温かいお言葉をかけてくださったことに、深く感銘を受けました。

3.本研修で学んだこと

本研修を通して、様々な場面で「主体性」を学ぶことができました。日本人学生が2人1組で行った JABSOM の学生との問診や PBL では、自分の英語に自信が持てず、萎縮してペアやグループのメンバーに頼りがちでした。しかし、そのままではスキルの向上につながらないと考え、間違ってもよいから積極的に発言することを心がけました。さらに、ワークショップ終了後には寮に戻ってルームメイトに相談し、適切な表現方法や疑問点を確認することで、翌日の練習に活かすことができました。また、研修期間中には多くの学生と交流し、医学部を志した理由や普段の英語学習について、将来海外で働きたいと考える背景など、さまざまなお話を伺いました。例えば、医療機器の会社での勤務経験を経て「医師として医療に貢献したい」と思い医学部に進学した方、毎日欠かさず英語に触れることを意識して生活している方、将来海外で働くためにスペシャルレクチャー後に積極的に先生へ質問している方など、実に多様な姿勢に触れることができました。そうした仲間の取り組みを間近で見ることで、自分自身も大きな刺激を受けました。

4.まとめ

本プログラムの実施にあたり、熱心にご指導くださった日本および現地の先生方、施設を提供くださった Hawaii Tokai International College、JABSOM、そして参加を支援してくださった 公益財団法人日米医学医療交流財団様 に心より御礼申し上げます。また、全国から集まった学生と交流を深め、互いに励まし合いながら学べたことを大変嬉しく思っております。今回の研修は、私にとってかけがえのない経験となりました。今後も仲間と連絡を取り合い、それぞれの目標に向かって切磋琢磨を続けていきたいと考えています。